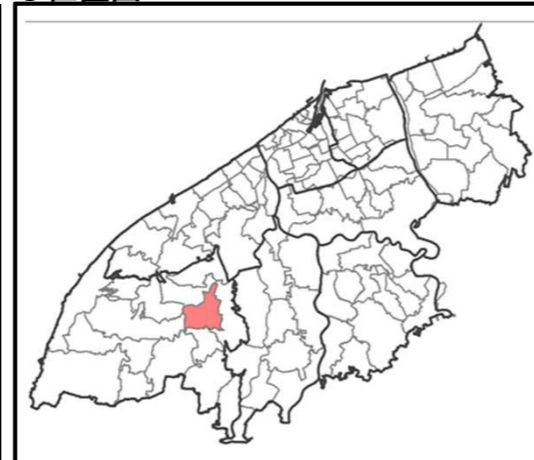


様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

Table with 3 columns for address names: 卯八郎受, 遠藤, 三方, 横戸, 鎧潟.

●位置図

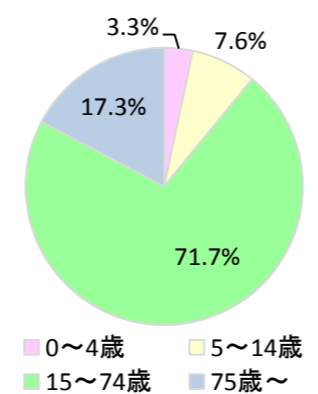


●施設・団体

Table listing facilities and organizations: 市役所・区役所等, 警察・消防, 消防団, 水防倉庫, 一時避難場所, 広域避難場所, 主利な用要施設配設慮者.

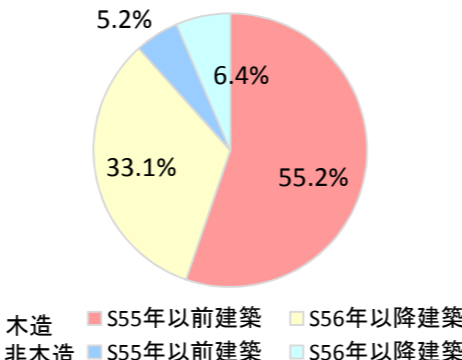
●人口

Table with population statistics: 総人口, 0~4歳, 5~14歳, 15~74歳, 75歳~, 65歳以上人口, 世帯数, 一世帯あたり人口, 人口密度, 昼間人口.



●建物関連指標

Table with building-related indicators: 総棟数, 木造 (S55年以前建築, S56年以降建築), 非木造 (S55年以前建築, S56年以降建築), S56年以降建築物.



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

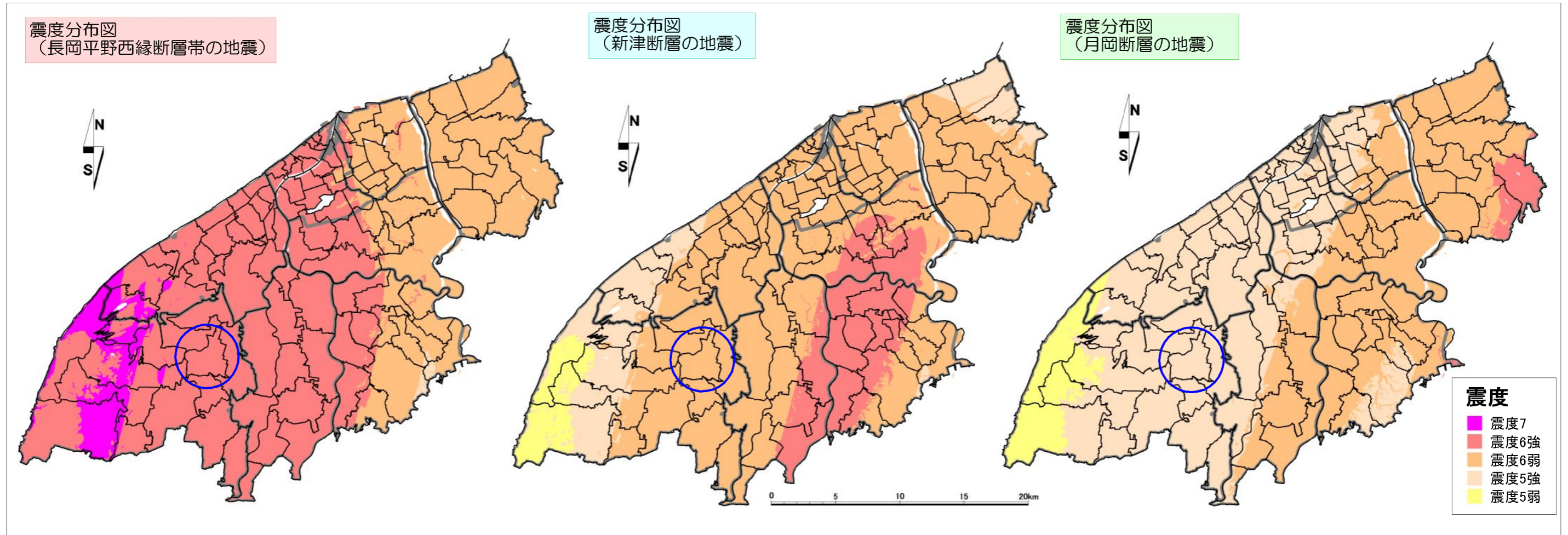
Table listing evacuation sites within the area: 潟東西小学校, 潟東中学校, 潟東体育館, 潟東農村環境改善センター.

●地区外の避難所・津波避難ビルなど

Table listing evacuation sites outside the area (empty table).

●災害危険性の評価

Table evaluating disaster risks: 地震・津波 (震害の可能性), 水害・土砂災害 (洪水による浸水).



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年  断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。  月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上  断層の活動性 0.4m/千年程度

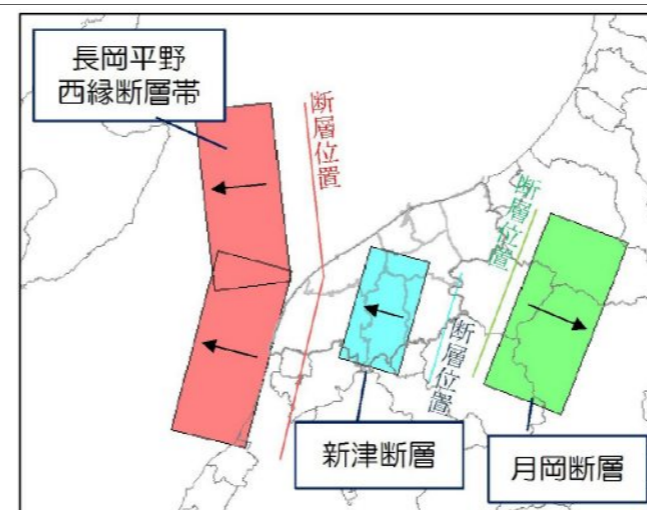
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

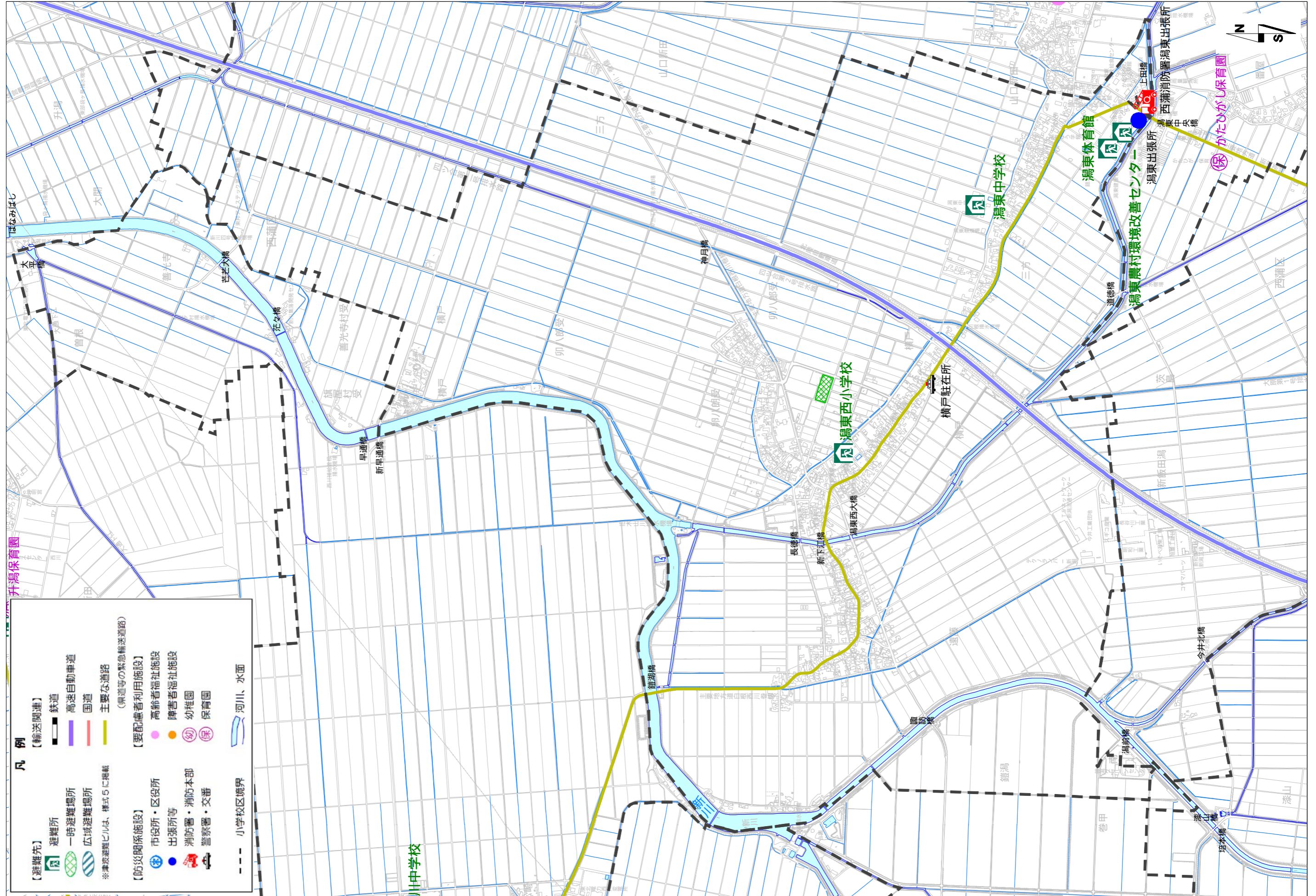
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

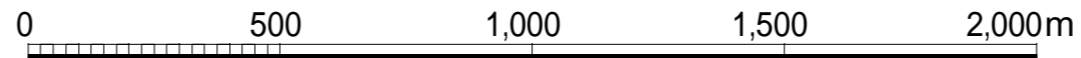
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

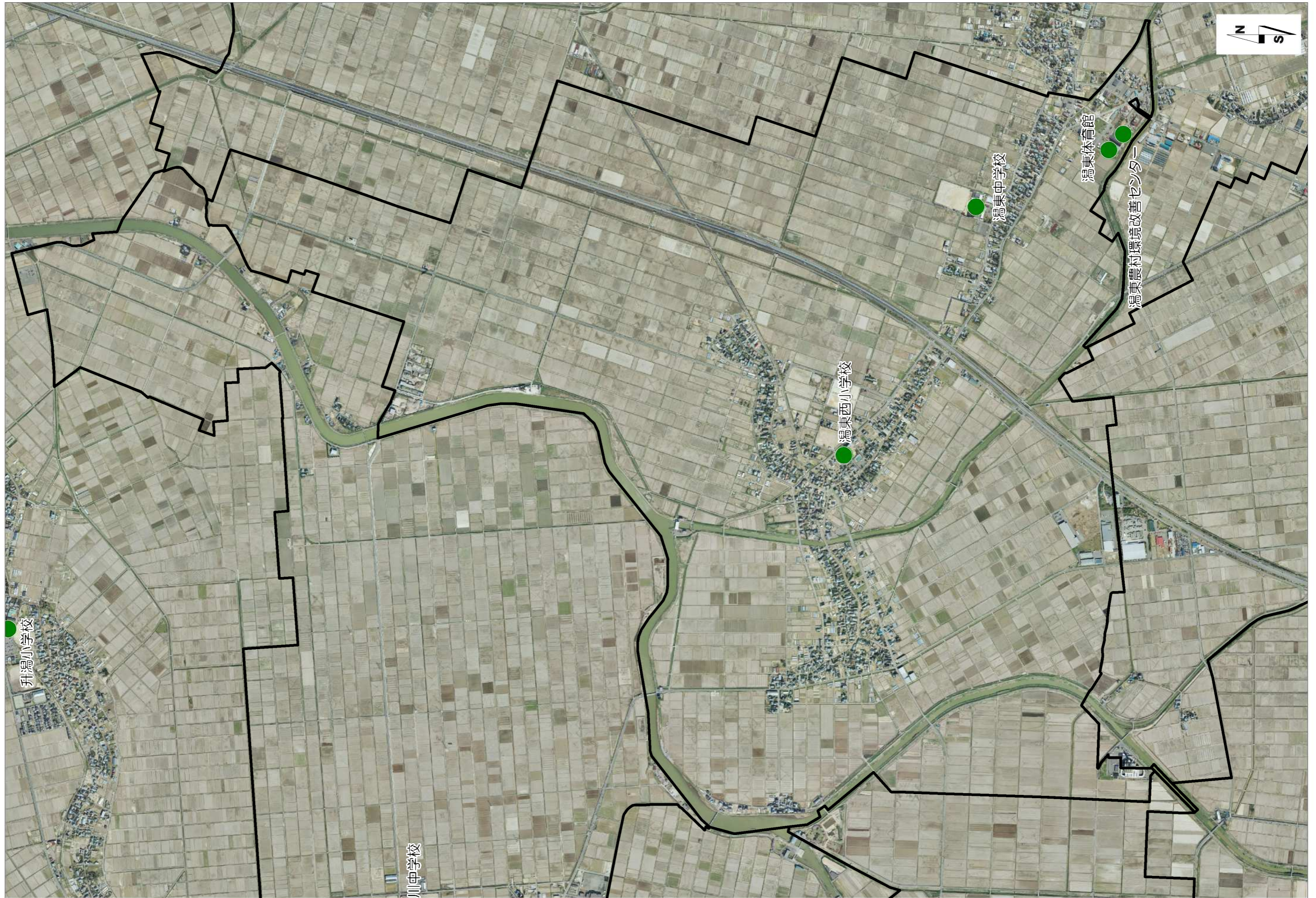


← は、断層の傾きを示しています。

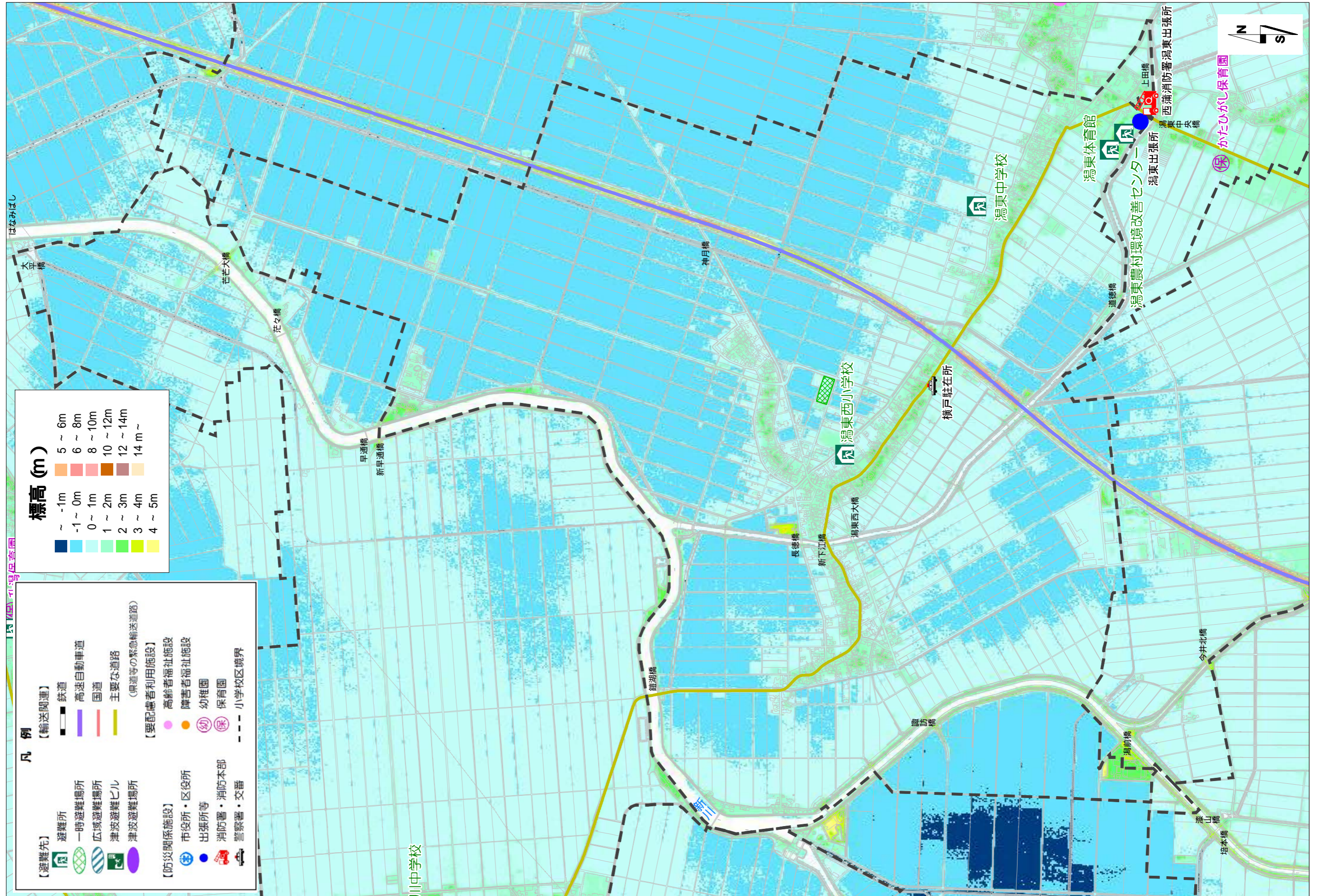


【出典】 碓氷の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)

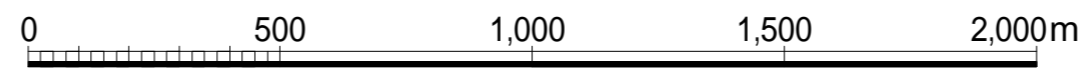




様式5 標高分布図

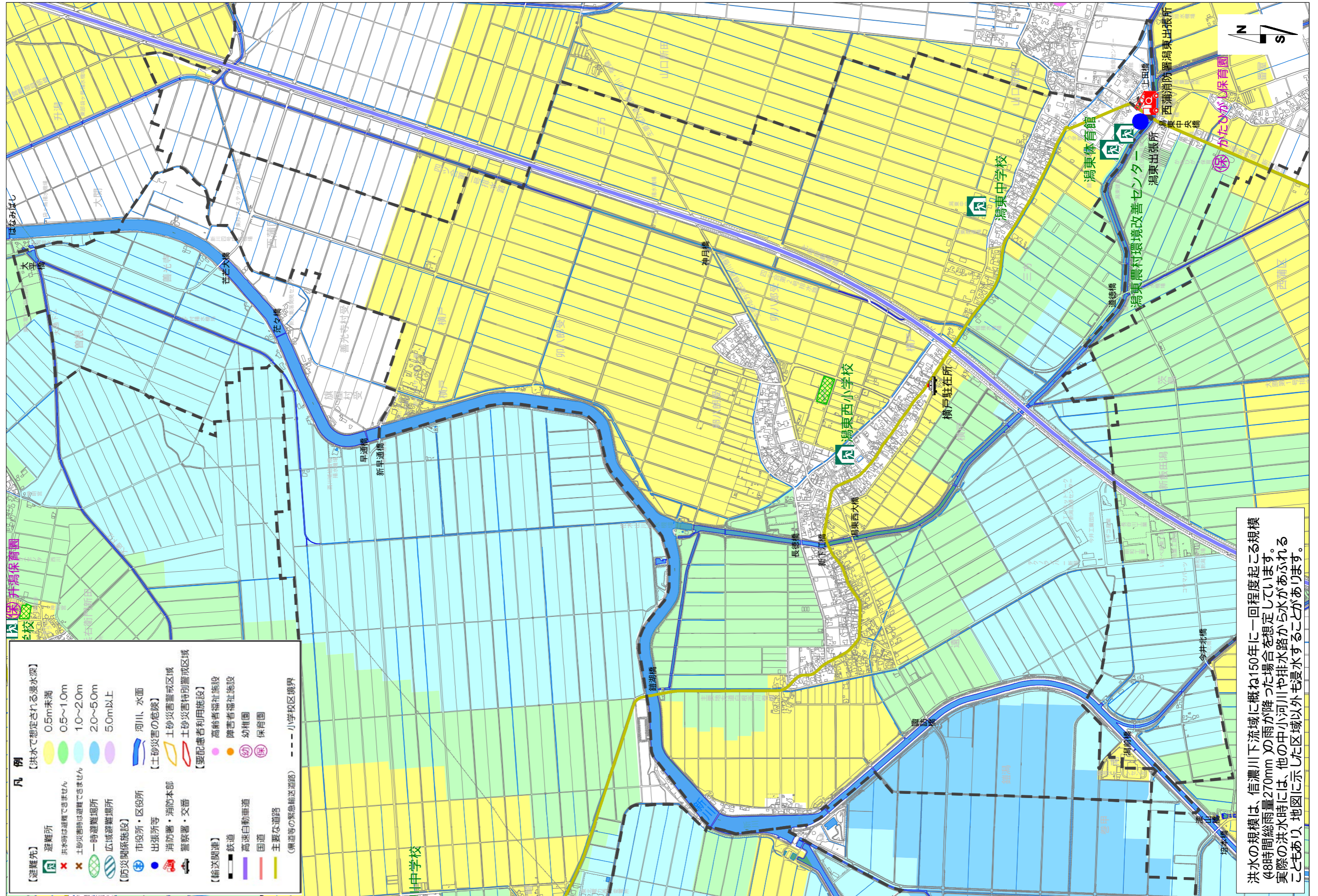


【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



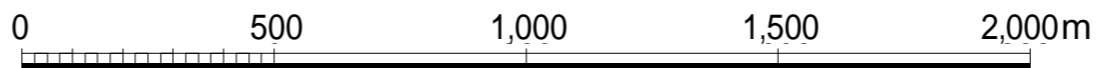
様式6-1 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（信濃川下流）

鴻東西小学校区



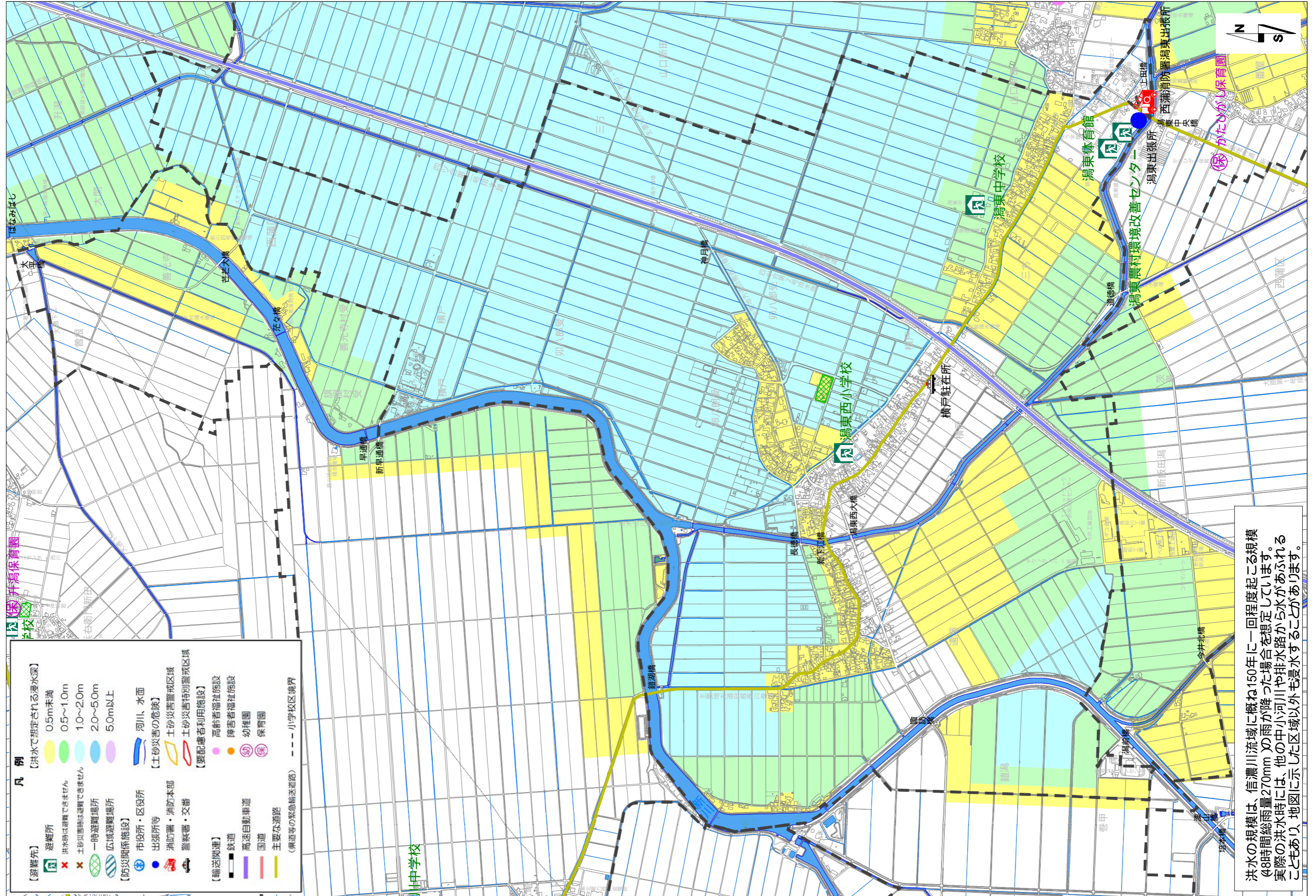
洪水の規模は、信濃川下流域に概ね150年に一回程度起こる規模 (48時間総雨量270mm) の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水がふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)  
 信濃川下流浸水想定区域 (国土交通省,平成14年4月30日)



様式6-2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（中ノ口川）

鴻東西小学校区

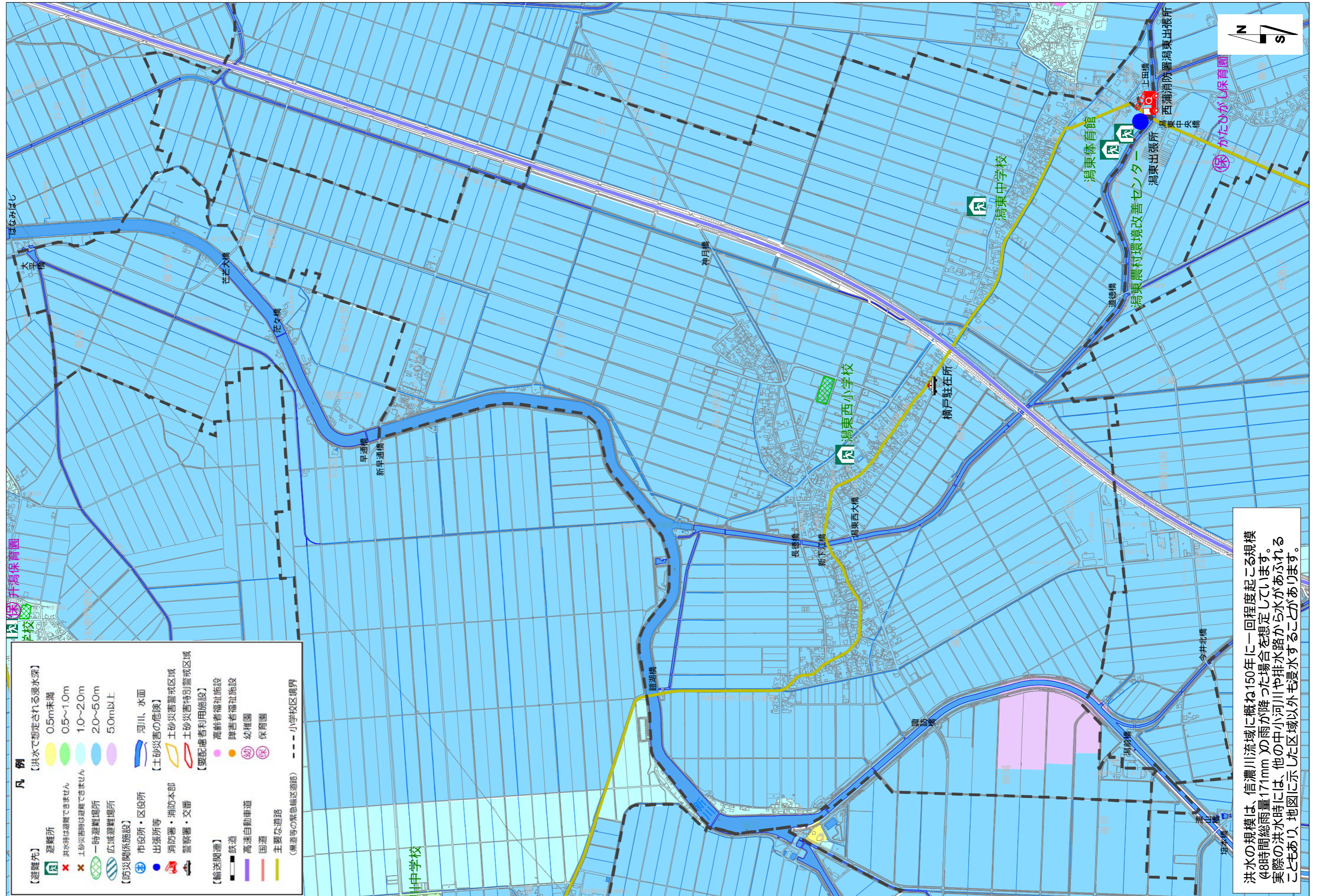


【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）  
 中ノ口川浸水想定区域（新潟県，平成16年6月15日）

洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模  
 48時間総雨量270mmの雨が降った場合を想定しています。  
 実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれる  
 こともあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

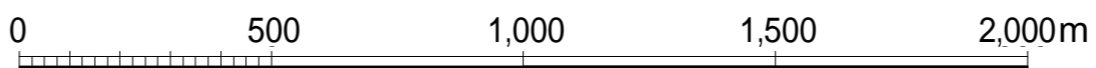
様式6-3 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（大河津分水路）

潟東西小学校区



洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量171mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

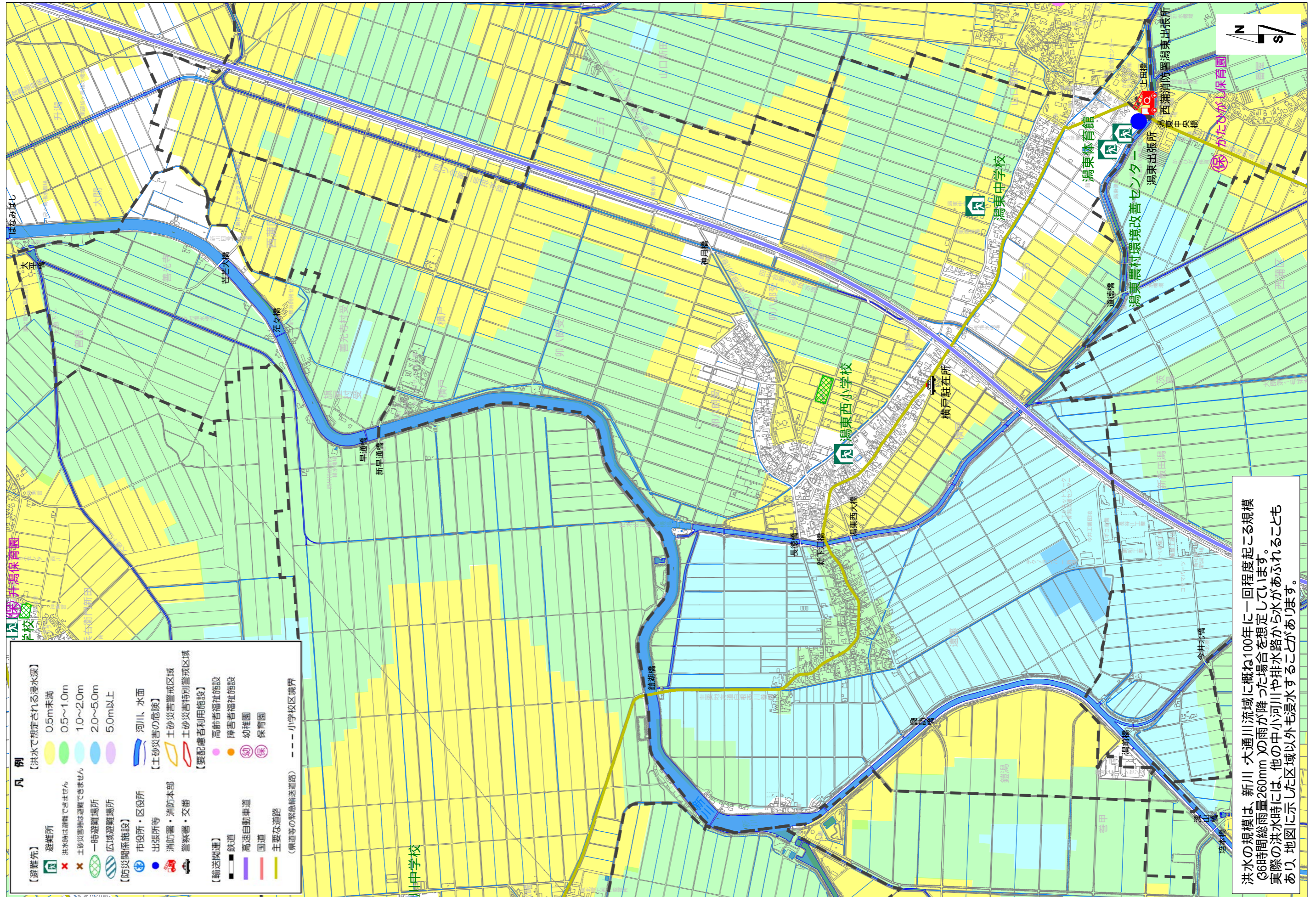
【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年) 大河津分水路浸水想定区域 (国土交通省,平成14年4月30日)





様式6-4 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路）

鴻東西小学校区



洪水の規模は、新川・大通川流域に概ね100年に一回程度起こる規模（36時間総降雨量260mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外にも浸水することがあります。

【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）  
 新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路浸水想定区域（新潟県、平成20年2月26日）

